

**和泉市信太丘陵市有地公園協議会 令和元年度総会  
議 事 録 (要旨)**

開催日時：令和元年6月2日（日）10：00～12：00

場 所：和泉市立人権文化センター1階大会議室

出席者：令和元年度和泉市信太山丘陵市有地公園協議会会員

(1) 学識経験者〔特別会員 A〕(50音順、敬称略)

桃山学院大学社会学部 教授	巖 圭介
大阪市立大学大学院工学研究科 教授	内田 敬
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 教授	藤原 宣夫
大阪府立大学 名誉教授	増田 昇

(2) 地元町会・自治会〔特別会員 B〕(50音順、敬称略)

熊田 泰行

(3) その他 全和泉市信太山丘陵保全・活用検討ワークショップ<sup>®</sup> 会員  
〔特別会員 C〕(50音順、敬称略)

田丸 八郎  
三輪 健一郎

(4) 〔団体会員〕(50音順、敬称略)

信太の森 FAN クラブ代表	島崎 舜次
いずみの国の自然館クラブ代表	梁取 征弘

(5) 〔一般会員〕(50音順、敬称略)

岩川 美佐夫  
今井 洋子  
穂積 久美子  
森井 豊  
山村 朋之  
吉永 正志  
米田 彰一  
渡辺 憲二

(6) 和泉市職員〔市側会員〕(機構順)

和泉市環境産業部 環境保全課課長	前田 淳
同 同 課長補佐	関 憲司
同 同 自然環境係長	平田 裕樹
都市デザイン部 道路河川室道路担当課長	稲垣 学
同 同 道路担当総括主幹	武市 直樹
同 同 道路担当主任	奥野 泰史
生涯学習部 文化振興課課長	森下 徹
同 同 文化財振興係長	千葉 太朗

(7) 事務局 和泉市職員（機構順）

和泉市都市デザイン部 公園緑地課課長補佐	横田 伸二
同 同 整備係長	岩田 真知
都市デザイン部 公園緑地課緑化推進係主任	野間口 知基
同 整備係主任	伏見 英朗
同 整備係主任	村地 裕士
同 整備係主事	加藤 拓斗

次 第

1. 開会

(1) 会長挨拶

(2) 会員紹介

2. 議事

■報告事項

1) 平成 30 年度事業報告

○平成 30 年度事業総括…………… (資料 1)

○平成 30 年度事業内容…………… (資料 2)

■協議事項

1) 令和元年度事業等計画と運営体制の枠組みについて… (資料 3)

3. その他

上記 2. 議事の平成 30 年度事業総括について、資料 1 に基づき事務局：和泉市都市デザイン部公園緑地課、資料 2 に基づき、①～③は、株式会社ヘッズ、④⑤は、三輪氏、⑥⑦は田丸氏、⑧～⑩は株式会社ヘッズが説明した。

資料 3 に基づき、①～③は株式会社ヘッズ、④～⑩は和泉市同課が説明した。

## 2. 議事■報告事項

・泉北丘陵全体で昨年度よりカスミサンショウウオが見つかった等の情報はあるか。

→確認された等の情報は特にない。

・昨年度の保全活動への平均参加者は約 38 名で、他で活動されている参加者数を聞くと 30 名程度で活動しているところが多いと聞くが多くの方に参加して頂いている秘訣は何か。

→高校生に参加頂いている。

・里山講座には人数が集まりにくい傾向である。

→開催場所を和泉中央駅や和泉府中駅周辺にすれば人が集まりやすいのではないか。

・里山管理のところで、公園整備や樹林の間伐等の活動を拡大していく事が今後の課題として上がっているが具体的に検討している事はあるか。また、樹林の間伐を行うにあたり安全講習等は行われているか。

→樹林の間伐については、チェーンソーを使用する等色々な方法があるので、地域森林ボランティアの手を借りて行おうといった案はあるが、具体的なことは決まっていないので、秋以降に企画したい。

・和泉市では、日本ボランティア協会の林地整備があり、樹木伐採の安全講習をしている。連携すればよいのではないか。市の農林部局かもしれないが、人工林の管理をボランティア協会がしているので、一緒にすればどうか。

→自主作業グループで一緒にしていくという話があったが、去年は台風での倒木処理はしたが、今後の具体的なところまではまだ話ができていないので、報告していない。

・協議会だけが管理をしたり、環境学習の場としてだけで利用するのではなくて、他の団体が利用したいとってくるかもしれないので、公園の趣旨に合致したら活動の受け入れを後々は考えていきたい。

棚田を一年間管理してみないか？など公募して、協議会で一定審査してから許可を出して、一年間してもらおうなど。そうでないと、自分達だけで 100 パーセント管理、利用活性化はできないので自主活動も含めて、持ち込みプログラムなどの受け入れを考えたらよいと思う。

## 2. 議事■協議事項

・P2 の図で二つの NPO の名前がなくなり、市民代表者に含まれているように見えるが、どう考えているのか。また、矢印(⇒)がそれぞれミーティングに入っているように見える。(保全活動ミーティングは※1、事業・計画ミーティングは※2が入っている。)

会議に参加するメンバーを教えてください。利用調整会議は月1回だが、別日になら良いが、同日程でするのであれば、※1と2は区別がつけにくいし、その時に事業・計画ミーティングも行うのかどうか等が難しいと思う。

→公園協議会のメンバーという事で図のような表現とさせて頂いている。

会議の運用方法等については、まだ詳しいことは決まっていない。

→※1と※2の矢印がそれぞれのミーティングの枠に入ってしまったので、訂正を行う。

→もっと枠組みのマル(○)や属性がなくなって一体化していくのが良いと思っている。

・企画運営会議より利用調整会議に付加がかりすぎるといった事はあるか。

→利用調整会議は企画運営会議の議題の事前調整的役割を担ってきた。

フィールドでのササ刈りの目途がついてきたので活動をもっと広めようとしている。

道づくりをすとか、あるいは楽しいこと、例えば物をつくるなどといった活動を

広げようとした際に企画会議の事前検討をするというのは荷が重いので、フィールド活動中心のグループと計画中心のグループに分けたいというのが目的。

保全活動ミーティングは形を変えないが、事業・計画ミーティングはあいまいなので、年2回企画会議の前に開催したい。メンバーは検討するが、従来の利用会議のコアメンバーなのか、あるいはもっと広いメンバーを募集するのか事務局で検討してほしい。

→今後、みんなの負担を減らして密な議論ができるような形態にしていければと思う。

・質問が二点ある。

一点目は企画運営会議、利用調整会議、事業・計画ミーティングの機能の役割、機能の仕分けとしては、企画運営会議は直接の当事者でない人が意見をいうところでもあるので

①や②にある評価・支援のという理解でよいか。また、最終的意思決定は総会という理解で良いか。

二点目は「市民」の考え方。里山講座で参加する人は図2ではどこになるのか。

参画を増やす市民の明確化をお願いしたい。

→最終的意思決定はあくまでも総会。企画運営会議の役割は第3者的なので、進行管理と利用調整会議で困っている点をサポートする役割。人材課題とか財政面などの各種課題の支援でという事で進めてみても良いのでは。

二点目、市民は誰も入れる。公園の趣旨を理解した人や、里山講座を受講した一般の方などが入れる。また、そういった方の中から企画運営会議にも参加頂けるように敷居を低くして入れる範囲を拡げる方向がよいのではないか。

・※1の中で、意欲を持って参画したい人がいるのに、既に団体などが記載されているので、もうひと工夫してほしい。

・※2の中での信太の森FANクラブや自然館クラブはここに入るのではなく、上に入るのではないか。保全活動ミーティングは今までどおりで、付加がかかるが事業計画ミーティングは平日の夜とか土日など違う日にするとか。活動でなくて、将来像などしくみを議論できる人参加してもらえとか、みんなが集まりやすい日など時間があえばよいのでは。

・この地域は歴史遺産や希少な自然の資産があり、観光資源は大きな価値がある。歴史遺産を和泉市の資産として活用できるような議論をできるようにしたい。良い時期にきていると思うので、見直してほしい。

→例として、泉佐野丘陵緑地のように市の観光ボランティア協会に入ってもらい、閑空での乗っぎ時間を利用して、里山を知ってもらうために市の観光バスなどで無料観光の拠点回るバス停をつくってもらい、旧市街地と一体的に停留所を設けてもらったり、隣の意賀美神社のお神楽をしたり、歴史・観光・地域資源の活動をいかに盛りこめるか。

また、高槻の安満遺跡公園では市民活動のグループがあるが、高槻市内歴史拠点をまわる提案など、半日・一日ウォーキングルートなどの提案してくれるグループがあるので、そんな方向へ展開していってくれば良いと思う。

現地のネザサが落ち着いたので、プラスの活動で、遊びや子供の自然学習、歴史学習などを実施する議論はどうか。

→検討のしくみを拾いあげる場として、事業・計画ミーティングが機能してほしい。そこであがった要望を企画運営会議に上げて、決定するための案をつくる。それを総会にむけて実行に移していくようなしくみをここで了解してほしい。

・文化財課に文化観光ボランティアのグループはあるか。

→市内にはいずみアピール課が所管している和泉観光ボランティアクラブが活動している。文化財振興課も和泉観光ボランティアクラブと連携し、様々な文化財活性化事業に取り組んでいる。例えば、池上曾根遺跡の保存活用計画や和泉・久保惣ミュージアムタウン構想などがある。このような取組みを市の北部地域、特に信太山丘陵里山自然公園に広げていきたいと考えている。また、この取組みを進めることが当協議会のメンバーに入っている文化財振興課の役割と考えている。

・今までの活動の枠組みを拓げる意味での事業・計画ミーティングの議論の重要性を指摘いただいた。

・市民代表者は誰がどう選ぶのか。

→具体的には決まっていない。

利用調整会議の保全活動ミーティングから何人か選んでもらうとか、事業・計画ミーティングから何人か選び企画会議に繋いでいくようになるかと思う。どこかの団体には入っていないが、里山講座を受講している人や活動している人、そういった方々の中から議論に入っても良いという人、これから入る人に参加してもらうとか。少しずつ展開していくのかまだ確定していない。今後議論を受けて具体的に考えていく。

・今は明確化していないが、考えているということで理解してよいか。

→はい、そのご理解でよいです。

・現在、高校生に参加してもらっている。来年退職するので、活動を継続できるように校長に頼んでいるが、来年どうなるのか悩んでいる。左の図は、教育委員会や事業者が入っているが、教育長でお願いを出すとか、依頼を出してほしい。事業者への呼びかけはどうなっているのか。

→事業者や教育委員会、企業にも働きかけをしていく。

→公園協議会から高校生に継続して活動を協力してもらうように校長先生あてにお願いするのはどうか。早急に継続依頼文の文案を事務局にて考えてほしい。文案についてはメールで流し、了解を得て提出する。

・里山講座の中で、自然がベースになりすぎているのではないかと思う。

まず、公園の理念の中に自然と歴史を継承するとある。この地域にも陰涼寺があったりと貴重な文化財や歴史があるが、郷土史家など詳しい人にどう理解したらよいか一度話をしてくれるよう頼むのはどうか。

次に、自然観察会を2回しているが、公園全体のガイドウォークは考えているのか。

資料2の市民説明用の都市計画資料で将来こんな公園になっていくという将来像をみて観察会をしないといけないのではないかと考えてほしい。

そして、市民を呼び込むイベントはできないか。私が経験しているイベントでは、40～50人程度に、クラフトとガイドウォークと管理作業を教育委員会と連携して2時間の間に体験してもらう。3つのプログラムが動いている。各班に分けるとか、管理作業にプラスオンができるような、また、毎年同じものでなくてもよいのではないかと。

また、暫定利用が長くなった時に、活動をサポートする簡易トイレを設置できないか。

活動をサポートする暫定措置として、暑い時はテントとか給水について今年9、10、11月で考えてほしい。

- ・里山講座の見直しで、理念や安全管理は必修であるが、年に1回は少ないし間口を狭めているので、1日に午前と午後の2回行う等でチャンスを増やしていく取り組みも必要になると思う。

また、選択の方は、自然観察会も保全活動も大切、保全活動が自由参加になっているので、来年度以降は見直してほしい。また、事例見学、自然観察会、保全活動への参加を選択にして、合せて2回はやるようにしたら参加者が増えてくるのではないか。

- ・ポイントごとに回るガイドウォークを行うとしたらどれくらいの時間がかかるか。

→敷地内だと1時間くらい、惣ヶ池湿地まで回ると2時間くらいかかる。

観光とか里山自然とか、一般的な観光地だけだとどうか、地域全体理解してもらおう。

名称がカスミサンショウウオからヤマトサンショウウオに代わっているので、今後どちらを使うか皆さんと相談する。

- ・観光は、その国・その地域が放つ光であると案内するのが良い。インバウンドを考えている。観光に力をいれないといけないので、観光を軽く考えると間違った道に行くのでよろしくお願ひしたい。

→自分達のしている活動に照らし合わせてどんな連携ができるか、また、どんな受け入れ方をするかといった議論ができるようにする年にしたい。

エコツーリズムとマスツーリズムは180度違う。単にツーリズムの話ではない。

- ・信太5号線について、今年度は道路の詳細設計の実施を予定している。業者も決定した。

また、現場での測量作業として用地の境界杭を現場に設置することや、道路用地の面積測量も予定している。

→道路の詳細設計と公園設計は連動しているので、公園計画と道路計画は整合するように進めてください。

以上